【文部科学省委託事業】インクルーシブな学校運営モデル事業

中間成果報告会

～今年度の事業実施状況と次年度への展望～

令和8年2月20日（金）

【団体名】　兵庫県教育委員会

【発表者】　主任指導主事　宮前　佳世

事業背景・自治体における課題

事業背景

・「兵庫県特別支援教育第四次推進計画（令和６年３月策定）」においても、多様性を認め合い、包摂性のある共生社会の実現に向け、「インクルーシブ教育システム」を一層推進していくこととしている。
・本県においては平成23年からインクルーシブな学校運営モデル*を展開し、一定の成果が出ている。

形態	設置年度	県立高等学校	県立特別支援学校（高等部）
併設型	H24	県立阪神昆陽高等学校（多部制単位制）	県立阪神昆陽特別支援学校
分教室型（一体型）	H23	県立姫路別所高等学校（普通科）	県立姫路特別支援学校
	H26	県立猪名川高等学校（普通科）	県立こやの里特別支援学校
	R6		県立川西カリヨンの丘特別支援学校
	H27	県立武庫荘総合高等学校（福祉探求科・総合学科）	県立阪神特別支援学校

【＊本県における
インクルーシブな学校運営
モデルの現状】

課題

・特別支援学校中学部、中学校卒業後の進路選択の多様化
・入学者選考における定員割れ（分教室）　等

（令和6年度）インクルーシブな学校運営モデル研究事業（県単独）実施
⇒「インクルーシブな学校運営モデル研究協議会提言」取りまとめ（令和7年3月）

2. 目的及び目標　【兵庫県教育委員会】

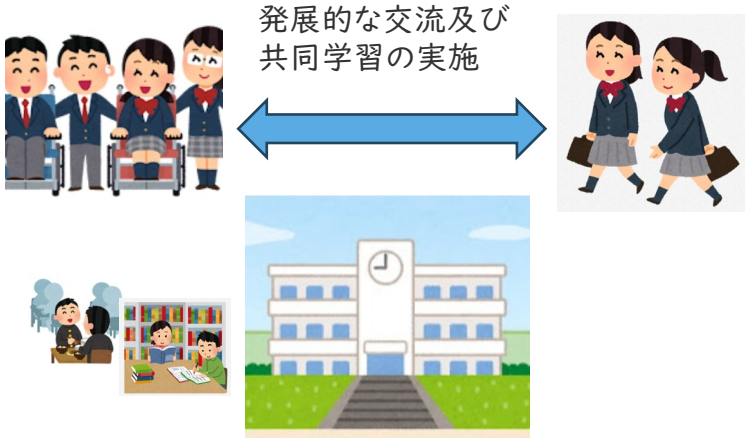
目　的

インクルーシブ教育システムの更なる推進のため、高等学校と特別支援学校の双方の生徒が同じ授業に臨むなど、発展的な交流及び共同学習の在り方とその実現に向けた方策を研究し、『兵庫型インクルーシブな学校運営モデル（兵庫型モデル）』の構築を目指す

目　標

①既存分教室においてこれまで実践されてきた交流及び共同学習の取組を継承しつつ、継続的な取組につながるような実施方法や内容、評価方法等について学校運営連携校において実践する。

②「兵庫型インクルーシブな学校運営モデル」の構築を念頭に、学校運営連携校における高等学校と特別支援学校の強みを生かした学びの充実に向けた学校運営の工夫や校内体制の整備等の方策を検討し実践する。



インクルーシブな学校運営モデルイメージ
【文部科学省令和8年度概算要求資料から引用】

3. 取組概要　【兵庫県教育委員会】

学校運営連携校	兵庫県立武庫荘総合高等学校（総合学科）　※カリキュラム・マネージャー配置校 兵庫県立阪神特別支援学校分教室（知的障害）	一体型

① 学校運営連携校の概要

【兵庫県立武庫荘総合高等学校】
（全校生徒：914人　※令和7年度）
・平成15年度に開校（県立武庫工業高等学校と県立武庫荘高等学校が発展的統合）
・個性を尊重し、生徒の多様な進路実現に対応できるよう、130を超える選択科目を設定

【兵庫県立阪神特別支援学校分教室】
（全校生徒47人　※令和7年度）
・平成27年に高等学校内に設置
・高等学校との交流及び共同学習や地域住民との交流を推進するとともに、体験的・実践的な学習を通して社会的・職業的自立に向けた教育の充実が図られている

カリキュラム・マネージャー	元県立高等学校校長 （県立特別支援学校での管理職経験あり）

② カリキュラム・マネージャーについて

・県立高等学校及び県立特別支援学校双方での管理職経験があり、各学校の教育課程に理解があるだけではなく、指導方法や指導内容にも精通している。
・学校運営連携校（高等学校）での勤務経験もあることから、学校の教職員とのコミュニケーションをスムーズにとることができ、両校の管理職とも連携しながらより良い方向に2校をコーディネートしていくことができる人物である。
・本事業においては、高等学校と特別支援学校両方の教員の間をつなぎ、交流及び共同学習の実施内容や時期等について日常的な打合せを実施する他、連携協議会の企画・調整、進行の役割を担う

③ 連携協議会の実施

【目的】
・交流及び共同学習の実施時期、実施内容、高等学校と特別支援学校の生徒のグループ活動（班編成等）に係る検討、授業後の振り返りシートの内容検討　等

【実施時期】
〇第1回：令和7年6月9日（月）
　構成：カリキュラム・マネージャー、分教室担当、高等学校担当者
　内容：学校設定科目「産業社会と人間」における実施内容の確認　等
〇第2回：令和7年9月19日（金）
　構成：カリキュラム・マネージャー、分教室主任、教務担当者
　内容：交流及び共同学習の今後の実施内容、育成したい力、教育課程への位置づけについて　等
〇第3回：令和8年3月実施予定
　構成：カリキュラム・マネージャー、分教室担当、高等学校担当者
　　※協議内容を学識経験者とも共有し、助言等
　内容：令和8年度の交流及び共同学習の実施教科及び実施内容の確認、評価の位置づけ（シラバスへの記載等）について　等

※上記3回以外にもカリキュラム・マネージャーが中心となり、分教室、高等学校の双方の教員と共に日常的な打合せ等を平均月2回程度継続して実施

④ 交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討（事例1）

（1）教　　科：産業社会と人間（学校設定科目）　年間約60h実施
（スピーチや企業インタビュー等様々な活動を通し、自己理解や将来の進路実現に向けた学習に取り組む）
「総合的な探究の時間」（分教室）

（2）対象学年：高等学校（1年生）・分教室（1年生）

（3）内　　容：①「私の学校生活」をテーマに、「なりたい自分」に向けて今後の学校生活をどのように送りたいか、そのための目標等について考え、参加者全員の前で2分間スピーチを行う
②各界で活躍されている業界人を学校に招き、仕事上の苦労や喜び、生き方に関する講演を聴く（職業人講演会）
③事前に地元の企業等の情報を調査し、質問内容を考え企業の方にインタビューを実施する（企業インタビュー）
④探究活動について学習し、SDG’sの中から研究テーマを1つ選び探究する（産社探究）

（4）工夫点等：自分の言葉で発表することに苦手意識のある生徒については、代替手段の活用も含めた表現方法を提示し、自分ができるやり方で実施できるようにする（スピーチ）

音声ソフトを活用してスピーチに参加する分教室生徒

事前に考えた質問内容を企業担当者にインタビュー

④ 交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討（事例2）

（1）教　　科：工業実習（選択科目）　「職業」（分教室）　年間約70h実施

（2）対象学年：高等学校（2年生）・分教室（2年生）

（3）内　　容：機械系、電気系、インテリア系の3系列の実習を行う

（4）工夫点等：日常の打合せ等で授業担当者同士（高等学校・分教室）が授業内容や生徒の実態についての情報共有を行う
実習前に「オリエンテーション」、「実習安全講義」を実施

安全に留意して実技授業を実施
（溶接）

高校と分教室の混合班で作業を実施
（塩ビパイプ加工、半田付け等）

実物に触れながら学習
（自動車の日常点検）

※作業着緑（分教室）
作業着紺（高校）

④ 交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討（事例3）

（1）教　　科：総合的な探究の時間　年間約15h実施

（2）対象学年：高等学校（2年生）・分教室（2年生）

（3）内　　容：高等学校・分教室生徒からなる混合班を編成し、3つの「ゼミ」形式で少人数の授業を実施
①分教室ゼミ：分教室生徒が取り組んでいる技能検定（喫茶サービス）に係る内容について、高等学校生徒が分教室生徒に礼儀作法や技術等を教わり、2校の生徒が共同で地域で喫茶コーナーを出店。お客様への接客サービスを行う
②地域活動ゼミ：近隣地域（団地）の住民と交流を重ね、地域貢献について考え具体的な活動を実施する
③社会課題ゼミ：現代社会の課題についてテーマ設定し、探究活動を行う

（4）工夫点等：少人数の編成にすることで、生徒同士のコミュニケーション場面を増やす
分教室の生徒が日常的に学習している内容を、生徒自身が他の人（高校生）に教える活動を通して、生徒自身の理解が深まる（分教室ゼミ）

分教室生徒は、日常的に喫茶サービスにかかる学習をしており、定期的に地域の交流施設に喫茶コーナーを出店し、夏季休業中には技能検定（県事業）にも参加している

その他：情報（3年生）、家庭（調理実習：2年生）、体育（持久走：1・2年）や学校行事（文化祭、マラソン大会等）等でも実施

⑤ 現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方

ア 学校運営連携校間における連携
連携協議会以外の場面でも、交流及び共同学習に係る内容や生徒の情報について日常的に打合せを実施している

イ 出前授業の実施（総合高等学校の教員による出前授業の実施）
【内容】①分教室2年生を対象としたプログラミング学習（microbit）の出前授業を実施
⇒プログラミングの基礎・基本の学習（今後の交流及び共同学習に向けた準備）
②分教室3年生を対象とした3DCAD、3Dプリンタの出前授業を実施
⇒ 3DCADでネームプレートを作成し、3Dプリンタで造形

ウ 外部人材の活用
【内容】①分教室生徒を対象に、ロボメイツ運営会社によるロボット組立、プログラミングの学習
⇒令和8年度の作業学習内容（企業からの受託）が決定
②高等学校生徒を対象に、人権講演会を実施
⇒テーマ「誰もが安心して暮らせる共生社会の実現をめざして」

ロボメイツ運営会社（株）エアグラウンド出前授業の様子

⑥ 研究協議会の実施

〇第1回：令和7年11月5日（水）
構成員：研究協議会委員（学識経験者、行政関係者、学校関係者）、カリキュラム・マネージャー、事務局
協議テーマ：①「兵庫型インクルーシブな学校運営モデル」の構築に向けた部会などの設置について
②既存分教室の充実について
内　容：「インクルーシブな学校運営モデル研究協議会提言（R7.3）」の具現化に向けた、事務局提案内容に係る承認（検討部会の設置）や、学校運営連携校における前期実践報告の共有、指導助言

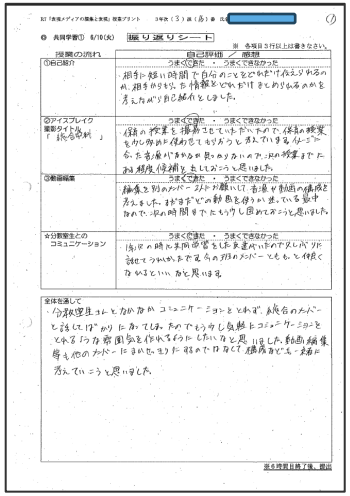
〇第2回：令和8年1月26日（月）
構成員：研究協議会委員（学識経験者、行政関係者、学校関係者）、カリキュラム・マネージャー、事務局
協議テーマ：「兵庫型インクルーシブな学校運営モデル（兵庫型モデル）」の実現に向けて
内　容：学校運営連携校における令和7年度実践報告、まとめの共有、指導助言
学校運営連携校における取組を踏まえた、「兵庫型モデル」の実現に向けた全体像、ポイントの整理、意見交換等

4 成果と課題、今後の展望　【兵庫県教育委員会】

本事業の成果

○「交流及び共同学習」の実施科目（教科）や実施回数を大幅に増やしたことで、学校生活において授業以外でも生徒同士が交流する姿が見られるようになった。
　⇒「明らかに生徒同士の距離が縮まった感がある」（カリキュラム・マネージャー）
○カリキュラム・マネージャーがいることで、交流及び共同学習の企画・運営がスムーズに行え、既存の取組以外の授業においても継続的に実施することができた。双方の教員の負担軽減にもつながった。
○実技系の交流及び共同学習を継続的に実施したことで、分教室の生徒の職業選択の幅が広がりつつある（興味関心の広がり、教員にとっての生徒理解の深まり）。
○教員の指導力が向上した（特別支援教育の視点を取り入れた授業の工夫、専門教科に関する知識理解の深まり等）。

※授業後の振り返りアンケートから一部抜粋
・1年次の時に共同学習をした友達がいたので久しぶりに話せて嬉しかったです。今のメンバーともっと仲良くなれるといいなと思います（高校）
・お互いに安心できるような雰囲気を工夫した（高校）
・総合のメンバーと話してばかりだったのでもう少し気軽にコミュニケーションをとれるような雰囲気を作れるようにしたい（高校）
・人が仕事をしているのに声をかけて空気を読めないところがあったので3年生の交流学習ではそれがないように心がけ努力しようと思いました（分教室）
・初めてのカレーを作り、あたふたしていた所を助けてもらったりしたので、武庫荘生の皆様には感謝しています（分教室）



授業後振り返りシート（一部）

●課題 ◎今後の展望	●座学中心の科目（特に大学受験に関係する科目）における「交流及び共同学習」の実施に難しさがある ●「交流及び共同学習」に係る評価について（評価の有無、方法、基準等） ●休み時間や放課後に気軽に交流ができる機会を増やせるような「場」の提供（共有のフリースペース等） ◎「交流及び共同学習」の実施科目、単元について、教育課程やシラバスに明記し、双方の教員及び生徒への意識づけを図る（年間を通じた取組としての定着） ◎新入生オリエンテーションで、「交流及び共同学習の意義」や、「インクルーシブ社会の実現に向けて」等の説明機会を設ける ◎「交流及び共同学習」の更なる実施可能教科、単元の検討（例：書道、理科　等）